

令和7年度 第2回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時		令和8年3月16日（月）13時30分から15時00分まで	
開催場所		多摩区役所1階 講堂	
出席者の氏名	委員	浅谷裕子（多摩区民生委員児童委員協議会） 大澤敏夫（川崎市多摩区社会福祉協議会） 小川町子（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 和秀俊（田園調布学園大学） 川村由布子（多摩区地域自立支援協議会）	櫛笥永晴（多摩区医師会） 楠静子（多摩区老人クラブ連合会） 坂本顕隆（多摩区町会連合会） 永井浩之（登戸地域包括支援センター） 眞壁総子（多摩区こども総合支援連携会議）
	多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会・多摩区支え合いのまちづくり推進会議事務局	佐藤直樹（多摩区長） 渡曾勝行（危機管理担当課長） 大塚裕司（総務課長） 佐藤直子（企画課長） 柏原美由紀（地域振興課長） 板尾康章（生涯学習支援課長） 上野進（生田出張所長） 石渡慎也（保険年金課長） 土岐岳子（地域みまもり支援センター担当課長） 中山礼子（児童家庭課長） 小泉朋子（高齢・障害課長） 高橋みゆき（保護第1課長） 根岸友絵（保護第2課長） 瀧澤祐子（保育所等・地域連携担当課長） 南奈保美（学校・地域連携担当課長）	武田克巳（地域みまもり支援センター所長） 浅見政俊（地域みまもり支援センター副所長） 深澤隆行（地域支援課長） 永山友里江（地域支援課地域サポート係長） 林史大（地域ケア推進課長） 杉本光一郎（地域ケア推進課企画調整係長） 内田圭（地域ケア推進課企画調整係） 高橋公（地域ケア推進課企画調整係）
	関係者	舟橋健之（川崎市多摩区社会福祉協議会地域課長）	
欠席委員		小山富士子（多摩区子ども会連合会） 島峯諭（多摩区商店街連合会）	
議 事		（1）地域包括ケアシステム構築に向けた令和7年度の主な取組について （2）第8期多摩区地域福祉計画策定の方針について	
傍聴人の数		1名	

配付資料	[配布資料] 資料 1 …名簿 資料 2 …多摩区支え合いのまちづくり推進会議について 資料 3 …地域包括ケアシステム構築に向けた令和 7 年度の主な取組について 資料 4 …第 8 期多摩区地域福祉計画策定の方向性について 参考資料 1 …多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 参考資料 2 …令和 7 年度第 1 回多摩区支え合いのまちづくり推進会議会議録 [冊子資料] 第 7 期多摩区地域福祉計画 冊子、概要版
--------------------	--

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局（林課長）	次第1（開会）
	（会議録作成のため録音の承認）
佐藤区長	次第2（挨拶）
事務局（林課長）	・配布資料の確認
事務局（林課長）	次第3（新任委員の自己紹介）
事務局 （杉本係長→林課長）	次第4（多摩区支え合いのまちづくり推進会議について）（杉本係長）
	進行調整役を和委員にお願いしたい旨提案→承認
和委員	僭越ながら進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 それでは次第に従い議事を進行する。 議事（1）について 事務局から説明をお願いします。
事務局（杉本係長）	次第5（議事）
	（1）地域包括ケアシステム構築に向けた令和7年度の主な取組について 資料3の説明
和委員	大澤委員から、ご意見、ご感想があればお願いしたい。
大澤委員	地ケアつながりプロジェクトTeamSUGAは、約4年前から始まった取組で、交流会には自分もほぼ毎回参加している。交流会ではグループワークを行い、話し合った内容を発表するほか、懇談会も行っている。新しい方の加入も多く、活発な取組が行われている。
和委員	TeamSUGAのような取組は、制度や仕組みによらない、新しい地域課題解決の方法として、突破口になるのではないかと考えている。 新しく委員となられた浅谷委員に、ご意見やご感想をお伺いしたい。
浅谷委員	中野島つながり愛プロジェクトについてだが、プロジェクト周知のために制作している横断幕が新しくなり、非常に見やすくなって良かったと感じている。このプロジェクトに参画している保育園の園児が、プロジェクトをきっかけにつながった団体のグループホームに訪問をしたという事例があり、若い世代はつながるのが上手だという印象を受けた。
和委員	浅谷委員は、2月の地域活動マッチングイベントにも参加されたのか。
浅谷委員	参加した。会場は多くの人で賑わっており、ブースでは丁寧な説明を聞くことができた。
和委員	新たにつながりたい団体や個人との出会いはあったか。
浅谷委員	イベント第1部で登壇した田中さんが所属する、ウォーキング推進委員会に関心を持った。ウォーキングアプリ「かわさきTEKTEK」も使っている。
和委員	「かわさきTEKTEK」はどういったメリットがあるのか。

発言者	発言要旨
佐藤区長	歩いてポイントを貯め、希望する小学校・中学校に寄付することができる。
和委員	ウォーキングは心身の健康にとって重要だと考えている。 小川委員からも、ご意見、ご感想があればお願いしたい。
小川委員	地域活動マッチングイベントに多くの方が来場された理由については、様々な媒体で広報を行った成果なのではと感じた。地域包括ケアシステムの認知度はまだまだ低く、特に30～40代の子育て世帯に知ってもらうことは重要と考えている。自分の団体では食を通じた健康づくりを行っているが、食はどんな人にとっても重要な課題である。例えば、高齢者向けの取組として、一人暮らしの方用のレシピを考えたり、独自でカフェを開き、フレイル予防の講話を行ったりしている。若い世代にも知ってもらいたいが、多忙なため難しいことが多い。食生活改善に関しては、座学的な要素もありハードルが高いのかもしれないと感じている。
和委員	多摩区には多くのこども食堂があるが、連携事例はあるのか。
小川委員	他区では連携している例もあるようだが、多摩区では連携はしていない。
和委員	こども食堂には子どもたちだけではなく、親や多世代が関わることも多い。そうした場で、子育て世帯に向けた食生活改善のためのミニレクチャーができれば良いのではないかと感じた。
小川委員	これまで世代別の講習を行っていたが、今後は地域のカフェ等で、多世代を対象としたレクチャーが行えると良いのではと考えている。
和委員	多摩区の特徴として、大学生が多いが、食生活のバランスが良くないと推測される。大学生を対象とした場もあると良いのではないかと。
小川委員	昨年度は大学生向けの取り組みも行った。金銭的・時間的余裕がない場合が多いため、そうしたニーズに合致するレシピやコツをお伝えする必要があると感じた。
和委員	食事を通じて、色々な世代の方が集う、重要な取組だと感じた。 永井委員からも、ご意見をお伺いしたい。
永井委員	地域包括支援センターでは、日常生活の様々な困り事のご相談をお受けしている。多摩区では、要支援の方のプラン作成件数が他区と比較して多いが、こうした業務負担のため、地域づくりにスムーズに参加できない点が課題である。地域づくりに関しては、地域の中の色々な場面で、人と人がつながるようなイベント、特に一人暮らしの方がつながれるようなイベントがあれば良いと考えている。また、介護者のストレス軽減も課題と感じている。
和委員	昨今、福祉業界はDX導入やAI活用が推進されているものの、中々根付かないと言われているが、現場の状況はどうか。
永井委員	外出先で記録を入力できるようになったり、情報を見られるようになったり等、事務軽減も少しずつ進んでいると思うが、一方で、介護保険の様々な情報は今もFAXでやりとりをしている状況である。

発言者	発言要旨
和委員	現場の状況は難しい様子だが、これからの地域福祉はD XやA Iの活用が土台になるとも言われており、更なる活用推進が望ましいと考える。まっふる多摩区版の活用についてのご意見もお伺いしたい。
永井委員	包括支援センターへ相談すると、施設に入れられてしまうのではないかとといった考えを持っている方もおり、そうした誤解を払拭するためにも、視覚的なツールとして、是非活用したいと考えている。ただ、自分から相談できない方とどうやってつながれるのかということも課題だと感じている。
和委員	広報誌をうまく活用しながら普及啓発ができればいいと考えている。 地域みまもりネットワーク事業について質問だが、協定を結んでいる事業者として、コンビニは入っているのか、事務局にお伺いしたい。
事務局（林課長）	基本的には自宅訪問にて異変を感じた際、通報してもらうという仕組みであり、コンビニとの協定は結んでいないと認識している。
和委員	他自治体では、ガソリンスタンドやコンビニでみまもりネットワークを形成している事例もある。特にコンビニは日中、高齢者の居場所としての機能もある。
事務局（林課長）	改めて確認したところ、セブン・イレブンと協定を結んでいることが分かったため訂正する。
和委員	アウトリーチ型の見守りもよいが、コンビニなどのネットワークを活用する視点も重要だと考える。ネットワークは色々なところにあり、皆さんのそれぞれの活動もネットワーク資源だと言える。 櫛笥委員から、ご意見・感想をお伺いしたい。
櫛笥委員	地域活動マッチングイベントの参加者が、昨年度と比べてかなり増加した点に注目した。配布グッズが魅力的だったことも、参加者増加の一因だと感じた。一方で、実際に活動見学に繋がった件数は少ない印象を受ける。事務局の見解をお伺いしたい。
事務局（杉本係長）	活動見学会の日程は、各団体1日しか設定していない。実際には、参加者が団体と直接やりとりをして、活動見学会とは別の日程で見学を申し込んだケースもあると聞いており、そうした方も含めると、もう少し増えるの見込んでいる。
櫛笥委員	こうしたイベントは、自分から外に出かけられる人が対象だが、そもそも自宅からほとんど出ないような方に対して、どうアプローチしていくかも考える必要がある。患者の話を聞いていると、自分が生活する地域の範囲をかなり狭く捉えていると感じることがある。そうした意味でも、色々な活動が、様々な地域で行われることの意義が重要なのではないかと考えている。
和委員	地域で孤立している方の支援はやはり課題だと感じる。櫛委員も地域活動マッチングイベントに参加されたとのことだが、ご意見・感想をお伺いしたい。
櫛委員	老人クラブのグラウンドゴルフの活動見学会には3人の方が申し込み、見学だけではなく体験もされ、実際に入会申込にまで至った。高齢者の孤立・孤独は課題と感じており、老人クラブの友愛活動では、外出が難しい方に対し訪問を行っている。老人クラブでは、生きがいを持って生き生きと活躍している方が沢山おり、是非仲間に入ってほしいと考えている。

発言者	発言要旨
事務局（杉本係長）	高齢者の孤立に関連して、補足したい。資料3 3ページにあるとおり、生田地区の西三田住宅管理組合と長沢地域包括支援センター、行政の三者が連携して見守りボランティアを結成し、個別訪問で声掛けを行う取組を試行的に開始した。
和委員	ボランティアはどういった方々で構成されているのか。
事務局（杉本係長）	実際に西三田団地に住む方にお声がけをして、ボランティアを募集した結果、3名の住民が手を挙げた。団地の街区、棟ごとに訪問活動を行っている。
和委員	戸数はどの程度なのか。
事務局（杉本係長）	約1,100世帯である。
和委員	見守りの必要性も高く、重要な取組だと感じる。 続いて、議事（2）について 事務局から説明をお願いします。
事務局（内田職員）	次第5（議事）
	（2）第8期多摩区地域福祉計画策定の方角性について 資料4の説明
和委員	次期計画については、今までの計画と大きく変わるということである。本日、委員の皆様からいただいたご意見については、次期計画策定に活かしていけたらと考えている。坂本委員からご質問・ご意見があればお伺いしたい。
坂本委員	タウンニュース小学生版を発行したとのことだが、中学生版はないのかと疑問に感じた。生田中学校では、毎年、「地域と語る会」を行っている。地域の町会長や民生委員、卒業生などと中学生が語り合う。地域福祉の観点から、中学生に対して色々な働きかけをすることは非常に重要と考えている。認知症普及啓発や、災害ボランティアにおいても、中学生の担う役割は大きい。次期福祉計画では、こうした視点も考慮してもらえたらと考えている。
和委員	東日本大震災でも、中学生が多くの方を助けた事例があったと聞いた。中学生は地域福祉の重要な担い手と言える。
坂本委員	補足だが、生田地区社協では、50年にわたり「中学生が語る会」を行っており、その実績が評価され「令和6年度全国社会福祉協議会有料活動表彰」を受賞した。
和委員	大変貴重なご意見をいただいた。 川村委員から、ご意見・感想をお伺いしたい。
川村委員	多摩区らしさということを考えると、大学があり、若い世代が多い点が挙げられる。また、グループホームや、就労継続支援B型事業所が多い地区があり、精神科の入院病棟があることも特徴である。そういった意味で、多摩区に住みたいという方も多く、障害のある方の地域移行について、地域の一員であるという視点を大切にしながら考えていきたい。
和委員	委員の皆様の貴重なご意見に感謝する。以上をもって議事を終了する。進行を事務局へお渡しする。

発言者	発言要旨
事務局（林課長）	和委員、議事の進行ありがとうございました。閉会にあたり、地域みまもり支援センター所長の武田から御挨拶を申し上げます。
武田所長	委員の皆様、長時間にわたり真摯な議論、貴重な御意見をいただきありがとうございました。次期地域福祉計画では、多摩区らしさを出したいと考えるが、市計画と一体になることで、区計画が全体の中で埋もれてしまうリスクもある。現行の計画は多摩区らしさを出すため、障害者団体の方の絵を掲載する、多摩区をひらがなで表記するなどの工夫をした。また、地域福祉計画は認知度の低さが課題であり、来年度の推進会議ではそうした課題についても話し合っていたらと考えている。本日それぞれのお立場からの貴重なご意見に感謝して、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。
事務局（林課長）	以上をもちまして令和7年度第2回支え合いのまちづくり推進会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。